

# 新潟・岩倉遺跡

- 1 所在地 新潟県糸魚川市大字田伏字岩倉
- 2 調査期間 二〇〇一年(平13) 四月～一〇月
- 3 発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 山本 肇
- 5 遺跡の種類 遺物散布地
- 6 遺跡の年代 中世・近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(糸魚川)

調査地は糸魚川市の東を流れる早川河口付近、海岸から約三〇〇m入った沖積地上に立地する。調査は国道八号線糸魚川東バイパス工事に先立ち行なわれた。周辺には伝極楽寺跡や田伏製鉄遺跡など中世の遺跡が多い。また、『古事記』に見られる沼名川姫を祭神とする式内社奴奈川神社も近在する。近世には幕府の郷藏が置かれ周辺郷村の中心となり、一方、北陸道の宿

場としても繁栄した。

立地の関係上、調査区東半は川原石が厚く堆積する河川氾濫原で遺構は確認できなかった。丘陵側の西半では礎石建物一棟と一辺約8mの正方形の方形区画遺構一〇基などを検出した。方形区画の南辺部分には直径5cmほどの杭が約三〇cm間隔で打ち込まれており、土止めと考えられるので、水田跡と思われる。

木簡は方形区画周辺の包含層から出土した。木簡出土状況の詳細は不明であるが、出土層位が一五～一六世紀の陶磁器片を主体とする暗褐色土層で、その上層が近世陶磁器片を主体とするため、中世後期のもので、近世には下らない。周辺からは他に鳥形や人形と思われる木製祭祀具が出土している。

## 8 木簡の釈文・内容

(1)



140×18×3 011

上端部を圭頭状に、下端部を隅丸状に成形する。下端は二次的なものか、他の部材に転用されたためと思われる。下端部裏面には木片を剥ぎ取ったような痕跡も見られる。墨痕の残る表面は調整が施されているが、裏面には調整が見られない。左側面には調整の跡が見られるが、右側にはそれが明確には見られない。墨痕は出土時点では肉眼で読めるほど明瞭であったが、それでも下端部に近づくと墨が薄い。墨痕が明瞭であったにもかかわらず、文字は釈読でき

ていない。上端部に近い部分はどこまでを一文字と認識すればよい  
か判断としない。通常の漢字では見慣れない字体のものも見られ、  
釈読を難しくしている。

圭頭状の形状や祭祀具を付近から共伴していることから、祭祀関  
係に用いられた可能性が高い。特に、中間付近に「井」（菩薩）の  
ような文字も見られるので仏教関係という推測も可能である。一方、  
水田と思われる方形区画施設に伴うことを考慮すると、水田農耕な  
どに関係する可能性も想定される。

なお、木簡の釈読にあたっては奈良女子大学館野和己氏・新潟大  
学小林昌二氏のご教示を得た。

## 9 関係文献

（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団『新潟県埋蔵文化財調査事業団年  
報 平成一三年度』（二〇〇二年）



（田中一穂）

## 木簡研究 第二二号

巻頭言—WEB版木簡データベースの公開に思う— 石上英一  
一九九八年出土の木簡

概要 平城京跡右京七条一坊十五坪 秋篠・山陵遺跡 薬師寺旧境  
内 藤原京跡右京六条四坊北西坪 大藤原京跡左京北五条三坊南西  
坪 飛鳥池遺跡 飛鳥池東方遺跡 飛鳥東垣内遺跡 川原寺跡 吉  
備池廃寺 長岡宮跡 平安京跡左京三条三坊十五町 平安京跡左京  
七条二坊八町及び本園寺 鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡 大蔵遺跡 興戸  
宮ノ前遺跡 武者ヶ谷遺跡 河守遺跡 難波宮跡 大坂城下町跡  
長保寺遺跡 溝昨遺跡 玉櫛遺跡 釣坂遺跡 加都遺跡 豊岡城館  
遺跡 岩井枯木遺跡 宮内黒田遺跡 姫路駅周辺第四地点遺跡 古  
網干遺跡 六太A遺跡 櫛田地区内遺跡群奥ノ垣内地区 内垣外遺  
跡 宇津宮辻子幕府跡 汐留遺跡 江戸城外堀跡（四谷御門外橋  
詰・御堀端通・町屋跡） 法光寺跡 白鷗遺跡 池之端七軒町遺跡  
浅草寺遺跡 上千葉遺跡 宮町遺跡 小谷城跡（伝知善院跡） 尾  
上浜遺跡 屋代遺跡群（北陸新幹線関係） 榎田遺跡 一本柳遺跡  
市川橋遺跡 柳之御所遺跡 志羅山遺跡 後田（旧月記）遺跡 洲  
崎遺跡 福井城跡(1) 福井城跡(2) 神野遺跡 堅田B遺跡 広坂遺  
跡 中保B遺跡 東木津遺跡 栃谷南遺跡 榎井A遺跡 下ノ西遺  
跡 杉本杉遺跡 砂山中道下遺跡 下町・坊城遺跡C地点 船戸川  
崎遺跡 三田谷I遺跡 熊山田散布地 岡山城二の丸（中国電力変  
電所）遺構 新道（清輝小）遺跡 米田遺跡 百間川米田遺跡 四  
日市遺跡 下上戸遺跡 長登銅山跡 観音寺遺跡 平田七反地遺跡  
元岡遺跡群  
一九七七年以前出土の木簡（二一）  
平城京跡左京二条二坊十坪  
釈文の訂正と追加（二一）  
長岡京跡（二八号） 東浅香山遺跡（二〇号） 伊興遺跡（一九  
号）  
シンボジウム「長屋王家木簡をめぐる」の記録  
削屑からみた長屋王家木簡：渡辺見宏、長屋王家の米支給関係木簡  
：勝浦令子、長屋王家の経済基盤と荷札木簡：楠木謙周、討論のま  
とめ：東野治之  
木簡の撮影  
書評 今泉隆雄著『古代木簡の研究』 井上直夫  
彙報 森 公章

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円